



校長 坂本 晋

# みたけが原便り

## 第12回 「出会い」

(4月始業式講話より)

只今は、7名の先生方から力強くも心の籠もったごあいさつを頂きました。いよいよ令和2年度、そして初めて3個学年が揃う中央附中の完成年度が始まるのだな、そう思うと身の引き締まる思いがします。

明後日には42名の新入生が入学してきます。本来であれば皆さんの校歌の歌声で迎えようと思ったのですが、今世界中で猛威を振っているコロナウィルスの感染防止のため、本校の入学式もやむなく規模を縮小して行います。

この新型肺炎の大流行では東京オリンピックが延期されるなど、社会に様々の大きな影響が出ていますが、本校でも2年生の台湾研修旅行が延期を余儀なくされ、このままでは3年生のカナダ研修旅行も予断を許さない状況です。

附中の海外研修旅行は、日進月歩のグローバル社会にあって高い学力と深い人間性、幅広い教養を身につけた国際人を育てたいという目的があります。

そしてグローバル社会とは、人間の持つ多様性を認め、考え方の相違や人種や宗教の違いといった様々の壁を乗り越えて自由に交流し合い、お互いがそれぞれの得意分野で貢献しているという「助け合い社会」です。

本来は良いことであるはずのグローバル化ですが、一旦こうした疫病が発生すると防疫のためあらゆる交流が遮断され、人や国々はいとも簡単に分断されてしまいます。今世界は普段国境を越えて人や物が自由に行き来し、役割分担や相互依存が隅々まで行き渡っているが故の脆さと矛盾に直面して苦しんでいます。

しかしこのことはまた一方で、私たちがお互

い同士手を携え、励まし合って協力することが如何に大切なことであるかを、改めて問い直し考えさせてくれます。

このように物事は「諸刃の剣」ともいえる二面性を持っています。何事もこれで正しく全てが事足りるという訳ではありませんので、皆さんには日々の学びの中で、物事の本質を捉え正しく判断するためのクリティカルシンキング(多面的で批判的な物の考え方)を、ぜひ自分のものにしてほしいと思います。

さて、今日は皆さんが新入生を迎えるにあたって、上級生として模範を示せるよう、ひとつ話をします。

それは、「出会い」についてです。今日皆さんが新任の先生方と出会ったように、4月は出会いの季節です。新年度も、皆さんにはこれから大勢の人や書物、目標や感動などたくさんのもとの出会いが待っています。

ただ、ここで知ってもらいたいことがあります。それは、出会いとは、けっして偶然の産物ではないということです。よく、運命の巡り会いなどといいますが、出会いとは実は必然的なものなのです。言い換えれば、大切な出会いのためには、その人が強く求め、時間をかけて貯え続けてきたものが不可欠なのだ、ということです。

現に皆さんと本校との出会いは、本校で学び成長したいという熱い思いを皆さんが抱き続けたこと、そして、それに向かって懸命な努力を重ねて来たこと。親御さんをはじめ応援してくれる大勢の方々がいたこと。それがあって初めて生まれたはずです。臨時休業から始まったこの長い春休みの間に失念してしまったとい

校長通信「みたけが原便り」 令和2年4月9(木)

う人はいませんか？「初心忘るべからず」ですね。

出会いには二つの条件が必要です。

一つは、自ら貪欲に求めること。自分の意志を鮮明にし目標に向かって努力を惜しまないことです。目標は人を強くします。そして努力は自分を信じる力をもたらします。

二つめは、膨大な蓄積です。継続し積み重ねる時間、と言ってもよいでしょう。「継続は力なり」とも言います。

この二つを実践することで、出会いは豊かな稔りを皆さんにもたらします。

人生には、喜びや感動との出会いが無数にあります。でも、自分からその方角に真正面から顔を向け、目をしっかりと見開き、細やかな感性の網を大きく広げていないと、もしかしたら、自分の人生を180度変えたかもしれない千載一遇の出会いも、掴みそこねたままたずらに傍らをすり抜けていってしまいます。

よりよい出会いとは、皆さんの真剣な生き方と弛まぬ努力によってもたらされます。日々の生活のあらゆる場面を逃さずに自分を磨き鍛えていきましょう。そうすることで、一つの出会いが次の価値ある出会いを生み、その広がりとともに皆さんの学校生活は必ずや豊かなものとなっていくはずです。

皆さんがこの1年、多くのすばらしい出会いを、自分の手で引き寄せ掴み取っていくことを期待します。

新入生とは9日の対面式が初顔合わせとなります。その時は、先輩として胸を張り、まずはお互い元気にあいさつを交わし、明るく声を掛け合うことから新しい出会いを始めていきましょう。

